

## 夢のつばさプロジェクト 2011 年 8 月プレキャンプ実施報告書

【日程】 2011 年 8 月 9 日(火)～11 日(木)

【場所】 奥多摩園(ブリヂストン保養所), 見学地:ブリヂストン TODAY 館

### 【活動概要】

#### 8 月 9 日

学生 5 名、事務スタッフ 1 名による送迎班が 10:00 に東京駅を出発して 12:50 に名取で子どもたちを迎え、新幹線で東京へ。すっかり仲良くなって 18 時に奥多摩園に到着しました。

初めての遠出・慣れない場所のためか、夕食を口にしようとしないう子があり、子ども係はやや緊張しましたが、夕食後、自己紹介ゲームで歌ったり体を動かしたりして、そのほかの学生・スタッフや子ども同士の交流を測りました。到着時から少し熱っぽかった一人の子が夕方から発熱し、38℃を超えたので、近隣の馬場医院を受診しました。ヘルパンギーナと診断され、直ちに保護者に連絡を取りました。熱はありましたが比較的元気であったため、保護者の了解を得て、その後服薬しながら様子を見て、保健室で看護師と共に過ごすことになりました。子どもたちの入浴・就寝後、スタッフは会議を開催。

#### 8 月 10 日

7:00 に起床して、食事前に 1 時間、勉強時間を取りました。研修室で、持ってきた宿題を広げたり、子ども係の学生ボランティアと一緒に本を読んだりして過ごしました。

朝食後、110mハードル入江幸人選手が到着し、奥多摩園の庭(芝生)でかけっこ等をして遊びました。入江氏は小学生の徒競走指導等の経験が豊富で、子どもたちは楽しい活動にすぐに引き付けられ、学生スタッフも本気になって汗を流しました。

昼食は、学生スタッフが心をこめて準備したバーベキュー。暑い盛りの実施のため、食材について議論を重ねました。肉を使わず、ソーセージと野菜、焼きそばを作りましたが、とても美味しく頂きました。食後はスイカ割り等をして木陰でおしゃべりをしたり、部屋で将棋やゲームをしたりしてくつろぎました。

夕食後、研修室で音楽会を開きました。フラメンコギターグループ「ドン・アルマス」の若い演奏者たちは、子どもたちを励まそうと心を砕いて下さいました。本格的で、またとても気持ちの良い演奏会でした。ペットボトルの笛の合奏を全員で楽しんで、最後に輪になって肩を組み、「翼をください」の歌を合唱しました。飛び入りで振付けも入って、学生たちも大満足でした。宿舎前で花火をして、子どもたちは就寝。スタッフ会議後、アルバム係は、ほぼ徹夜で写真を印刷し、コメントや挿絵を入れて、一人ひとりに渡す写真アルバムを作成しました。

発熱した子も 2 日目は徐々に快方に向かったため、なるべく皆と一緒に雰囲気を楽しめるように工夫しました。子どもの保護者には、日に数回電話して、体調を詳しく報告しました。

#### 8 月 11 日

朝食後、奥多摩園の庭で植樹祭を行いました。子どもたちが一人一人、紅白の布で飾ったスコップで、用意されたあすなろの木の根に土をかけ、記念碑にかけられた紅白のひもを引いて除幕式を行いました。このあすなろの木は、これから子どもたちと共に成長する、この活動のシンボルとなることでしょう。

玄関ラウンジで閉会式を行い、それぞれの子どもを主人公にまとめたアルバムを贈りました。子どもたちはかわいらしく飾られたアルバムを大変喜んで、何枚もの写真をめくっていました。奥多摩園での活動はこれで終了し、子どもたちと送迎班・子ども係をブリヂストン TODAY 館見学に送り出したのち、残りのボランティアたちは片づけを行い、現地解散しました。

TODAY 館では、武濤執行役員以下(株)ブリヂストンの方々からとても温かい歓待を受けました。タイヤの話を伺ったり、レーシングカーなども見学して、東京駅へ向かいました。西武線に乗車直後、大雨と共に変電所への落雷が発生し、電車が不通になって、子ども達とスタッフが車内で缶詰になるという状況が起りましたが、事務スタッフらが東京駅に駆け付け、1 時間程度の遅れで、新幹線で名取へ送り届けることができました。電車利用は荷物を持つての移動もかなり負担であることもわかり、今後はバスでの移動を選択したいと考えています。

## 【まとめと今後に向けて】

今回のプレキャンプでは、体を動かしたり、音楽を聴いたり、さまざまな活動が行われ、子ども達から大変楽しかったという感想が得られています。子どもが何度もキャンプの話をしているという話や、兄弟を次に参加させるという話等、保護者からも感謝の言葉を頂き、今回のプレキャンプは概ね成功したと考えます。参加スタッフの満足度も高く、次に向けた様々な意見も出て、12月のキャンプへのモチベーションを高めたということからも、有効であったと考えています。NPO法人全国てらこやネットワークの皆さんとは、実質プレキャンプもほぼ一体となって活動を続けてきましたが、組織を挙げて共働することを申し出て下さり、2011年冬の第一回キャンプから、「夢のつばさプロジェクト」の実施母体の一員として、参加頂くことになりました。

この活動を立ち上げ、お茶の水女子大学学生自治会に実施メンバーとして学生ボランティアの募集の相談をしたところ、お茶大や東大等を中心に、すぐに多数の学生の参加申込がありました。学生代表・企画リーダーのもと、のびのびと楽しんで活動し、全日程の企画を成功させました。子ども達からも慕われ、キャンプ後、手紙やメール交換をしている例もあり、信頼関係が築かれていると感じます。子どもの担当となった者だけではなく、企画準備に当たる裏方も、積極的に子どもと関わりました。手持無沙汰にしたり、学生同士でしゃべったりという姿が見受けられず、それぞれの役目を果たして、充実した時間を過ごせた様子でした。事務局としても、今回のプレキャンプの成功のカギの一つは大学生の努力であったと高く評価しています。

夢のつばさプロジェクトの活動には多くの皆様から心温まるご連絡やご支援を頂いています。さらに奥多摩園での宿泊や食事等に心を尽くして対応して下さいました(株)ブリヂストンの皆さまをはじめ、キャンプの企画に参加して下さいましたアスリートソサエティ、音楽事務所クライス、継続的に物心両面の支援を下さる(株)富山房インターナショナル、植樹祭を取り仕切って下さった小関田中園、活動ノウハウを教授頂いたNPO法人全国てらこやネットワーク、活動の事務作業を担当したHuSEEC等の皆さまからの、様々なかけがえのないご助力のお蔭で、非常に有意義な活動を行うことができました。この活動をご支援下さる方たちは、学生主導の活動をさらに支えようという姿勢で接して下さいます。その好意に甘えず、感謝の心で、礼儀正しく交渉する態度を持つよう、学生とも話し合いました。学生も初めての経験を徐々に成長につなげつつあります。

子どもの安全・健康管理については体制を明確にし、キャンプ期間を通じて看護師を雇用して臨みました。看護班は、キャンプに参加する子どもの保護者との連絡を取り、情報をやり取りするシステムの整備を行いました。キャンプ後は子ども全員に対して、食事の様子、体調の変化、子ども係による生活面の記録を加えた報告を作り、保護者からとても感謝されました。

キャンプ後、学生たちは、傷ついた子どもの不安定な気持ちをもっとしっかり受け止めていきたいという想いを共有しました。ゆっくり誠実に接することが基本であると話し合いつつ、サポート役があることを知らせることも不安軽減の一助と考え、事務局では、子どもの心の問題をさまざまな専門家から学習する機会を企画しました。学生たちは週一回の会議を開いていますので、これに合わせ、10月18日にメンタル心理士の板生郁衣氏、及び11月1日と11月29日に心理カウンセラーの木村純子氏にお話を伺いました。

プレキャンプでは、準備が整わず公募ができませんでしたので、12月の第1回キャンプについては、発表時期も含め、早急な対処を心がけました。10月6日には、(株)ブリヂストンとお茶の水女子大学が、同時にプレス発表を行いました。福島・宮城・岩手県の教育委員会にも同時に募集要項をお知らせして、2011年冬キャンプの募集を開始しました。現地との連携作りのために、東北各県のお茶の水女子大学同窓会「桜蔭会」の支部役員と連絡を取って、9月13日に福島県教育委員会、10月6日に宮城県教育委員会、10月23日に岩手県桜蔭会支部を訪問し(岩手県教育委員会は6月23日に訪問)、各地の現状を見せて頂き、今後の協力体制の構築に関する相談もさせて頂きました。子ども達への広報を依頼しましたが、各教育委員会や、孤児・遺児を担当する児童家庭課の方々から快く協力が得られて、さらに子どもたちの状況、冬休みの日程などを伺うことができました。この活動についての認知度、信頼度がかなり高くなったと感じることが出来ました。

東北各地はまだ交通も回復せず、特に岩手県からは遠く東京へ子どもを送り出すことをためらう保護者からの電話もありました。キャンプ活動と、現地での活動も並行して進めていくことによって、日常的な支援ができるものと考えられます。岩手県の桜蔭会支部などの有志から、共同で支援活動を進めたいという

申し出もあり、10月23日には、こうした活動の拠点として遠野の調査を行いました(青笹牧場、荒川高原: トイレや休憩室などの課題があり検討中)。花巻青年会議所からの協力も得られ、2012年5月の現地での活動を一緒に行おうと企画中です。

### 【プレキャンプの写真】

ブリヂストン保養所「奥多摩園」の素晴らしい環境と温かいホスピタリティに、子ども達も学生ボランティアも思い切り楽しんだ様子でした(以下に写真を掲載)。今回は保護者に写真撮影をあらかじめお話しなかったのが、顔の見えないもののみを選択しています。

活動参加者に対しては、写真の共有はしないこと、ブログなどに写真を載せて、子どもたちの境遇について分かるようなことのないよう、確認を行っています。

送迎班: 名取駅のお迎え



入江選手



人間ハードル: 本物の迫力



水鉄砲



木陰のバーベキュー





ドン・アルマスのフラメンコ演奏を鑑賞



ペットボトルの笛を合奏



植樹祭



TODAY館見学



## 【学生リーダーの感想】

3月11日の東日本大震災は、本当に凄まじいものでした。惨憺たる被害状況に、とても心が痛みました。自分にも何かできることはないのかと考えていた時、この「夢のつばさ プロジェクト」のお話をいただき、リーダーとして参加させていただくことになりました。

プロジェクトには、50名にも及ぶ学生たちがボランティアとして登録し、精力的に活動しました。しかし、プロジェクトが発足した当時は、不安なことばかりでした。学生のほとんどにとってキャンプは初めての経験であるうえ、子どもたちと接するのも初めてという状態だったため、手探りでプロジェクトを進めていきました。あるNPOが実施した福島の子どものためのキャンプを見学に行ったり、何度も会議を重ねたりしながら、被災した子どもたちと共に楽しめる企画を練り上げました。時には意見が衝突することもありましたが、結果的に納得のゆくまで準備をし、当日に臨むことができました。

キャンプ当日を迎えてみると、それまでの不安を忘れるほど、ずっと笑顔で過ごすことができ、3日間はあるという間に過ぎました。今回は、学生に対して子どもたちが少なく心配でしたが、楽しそうにはしゃぎまわる子どもたちと一緒に、学生も童心にかえって楽しむことができました。夏らしく、バーベキュー、スイカ割り、また夜には花火も行いました。特にスイカ割りは初めての体験だという子どもも多く、大変喜んでくれました。しかし、ただ楽しむだけではなく、準備から後片付けまで子どもたちも大人も一緒になって行うことで、人として大切なことも学べるようにと、心がけました。

また、今回のキャンプは様々な企業や団体にご協力いただきました。キャンプ二日目には、110mハードルの入江幸人選手がいらして下さり、プロの走りを見た子どもたちは目を輝かせました。徒競走が早くなる方法を教えて頂いたり、リレーや水鉄砲で対決したりしました。子どもたちは、入江さんに勝とうと、懸命に体を動かし、とびきりの笑顔を見せてくれました。また、夜にはフラメンコギターの演奏グループであるDON ALMASが、演奏会を開いて下さいました。初めて聴く種類の音楽に子どもたちは心を動かされた様子でした。また全員で「つばさをください」を合唱した時には、子どもたち同士はもちろん子どもと学生の間にも、強い絆を実感しました。

最終日に行われた植樹祭も印象的でした。子どもたちと一緒に、紅白の布で飾られたスコップで「あすなろ」の苗木を植え、これからともに成長しようと誓いました。

他にもたくさんの企画を行いました。どの活動も、様々な方々のご支援のおかげで、この「夢のつばさプロジェクト」でしか味わえない、貴重な体験となりました。子どもたちも初めての経験の連続に、終始わくわくした様子を見せてくれました。

プレキャンプとして行われた今回のキャンプでは、冬の第1回キャンプに向け、交通手段の問題や、子どもたちの精神的ケアなど、様々な課題が明らかになりました。しかし、3日間を通して子ども達の笑顔をたくさん見ることができ、「また来るね！」と言ってもらえたことのできた今回のキャンプは、子どもたちにとっても学生にとっても、忘れられない夏の思い出となりました。子どもたちのためにと始めたキャンプでしたが、逆に私たちがとても成長させてもらったように思います。

課題はまだまだたくさんあるこの「夢のつばさ プロジェクト」ですが、自分自身も成長させてもらいながらも、子どもたちが夢に向かって羽ばたくお手伝いをして行きたいと思います。

学生ボランティア代表 竹内早紀(お茶の水女子大学)